

～ 健口と輝く笑顔のために～

歯科衛生だより 会報

2022 February vol. **67** 発行人/吉田 直美 発行/公益社団法人 日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <https://www.jdha.or.jp/>

年 頭 所 感

公益社団法人 日本歯科衛生士会
会長 吉田 直美



2022年の新春を迎えるにあたり、所感の一端を申し述べ、新年の挨拶に代えさせていただきます。

昨年を振り返ると、一昨年から引き続きCOVID-19のパンデミックにより日常が一変しました。感染拡大抑止のために人びとの行動が制限され、それに伴い価値観の変化がおこったように思います。その中で「安全・安心」「レジリエンス(resilience)」といったキーワードが改めて認識されました。勤務形態、消費活動、雇用などあらゆる分野で不可逆的な変化が起き、歯科衛生士が置かれた環境にも大きな変化をもたらしました。

「安全・安心」

歯科衛生士が社会から真に必要とされる存在であり続けるには、歯科保健医療が安全に提供されることが何よりも重要です。コロナ禍となり、一時、歯科衛生士がCOVID-19に最も感染リスクが高いという報道がされたことなどで、歯科衛生士側にも患者側にも不安が高まりました。歯科衛生士の離職や患者の受診抑制が起こったといわれています。しかし、歯科衛生士の感染率は他の医療職よりも低いと報告があり、日本での歯科医療現場での感染の報告は皆無でした。これらのことから、私たちが実施してきた感染対策とコロナ対応が有効であったことが確認されました。同時にしっかりとした根拠がある情報か否かを判断するためにも常にクリティカルシンキングを働かせることの重要性を改めて確認しました。有事でも患者に安心して受療していただくためには、歯科衛生士として常に新しい情報を取り入れ、安全な医療を提供しているという姿勢を示すこと、日頃から患者と良好な人間関係を構築していることが重要です。

日本歯科衛生士会では、生涯研修制度において感染症予防歯科衛生士講習会を実施するだけでなく、認定歯科衛生士制度で歯科医療安全管理コースを設置しています。引き続き、多くの皆さんの受講をお待ちしています。今後も歯科衛生士の置かれている状況を考慮した生涯研修制度・認定歯科衛生士制度のプログラムの構築・改善を行ってまいります。

「レジリエンス(resilience)」

「レジリエンス」という言葉をご存じでしょうか。心理学でも看護学でもビジネス用語としても見られます。言い換えると、復元

力(困難があってもそれをはねのけて元に戻る力)です。

コロナ禍の終息は、いまだ見えないものの、この危機を克服した後は、社会の仕組みや価値が大きく変わっていくと思います。このような状況では、組織としても個人としてもレジリエンスを働かせることが必要です。誰も一生懸命やっても上手くいかない時があります。しかし、仲間の存在があれば、自分を実質的に支えてくれる大きな力・レジリエンスのもとになります。この仲間とは、いつも一緒にいる人たちだけでなく、歯科衛生士として患者に安全・安心な歯科保健医療を提供しよう、歯科衛生士自身が置かれた環境をよくしようといった同じ気持ちを持つ歯科衛生士の仲間・組織のことです。すぐには見えない組織所属のメリットを意識できている人が少ないのかもしれませんが、ひとりでは動かせない『もの・こと・しくみ』を大勢では動かすことができるということを、ひとりでも多くの歯科衛生士に気付いていただくよう働きかけていきたいと思っています。

さて、2022年の干支は壬寅(みずのえとら)です。壬寅は、「陽氣を孕み、春の胎動をたすく」ということを示し、これは、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力にあふれ、華々しく生まれる年と解釈されます。日本歯科衛生士会としては、厳しい状況下でも日々地道に様々な事業を積み上げてきております。人びとへの口腔健康支援を通じての健康寿命延伸、QOLの維持向上の成果が華々しく生まれるよう、様々な事業に取り組み、課題解決に貢献してまいります。

本年も、皆様のより一層の御理解と御支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

令和3年度 認定歯科衛生士セミナー開催報告

認定歯科衛生士委員会

令和3年度の認定歯科衛生士セミナーは、昨年、開催が延期となった歯科医療安全管理コースが加わり、6コースが順次開催された。当初、集合型開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大予防に配慮し、受講生の安全・安心を考え、すべてのコースでWebによる研修を実施した。

コースごとに工夫を凝らし、自宅で自分のペースで勉強ができるオンデマンド配信にて座学を進めてもらい、合わせて初めての試みであるライブ配信にてグループワークを取り入れた参加型の研修を行うことができた。

次年度、認定歯科衛生士セミナーの受講を検討されている方は、ぜひご一読いただき、参考にしてほしい。 (担当理事 須山 弘子)

生活習慣病予防

(特定保健指導—食生活改善指導担当者研修)コース

令和3年度「生活習慣病予防コース」認定歯科衛生士セミナーは9月4日(土)から10月3日(日)の期間においてオンデマンド配信を実施した。今回は新型コロナウイルスの影響により、集合型研修は行わずにオンラインのみでの開催となり、37名の歯科衛生士が受講を修了した。

本コースの受講により、日本歯科衛生士会の認定歯科衛生士取得のほか、食生活の改善指導に関する専門的知識及び技術を有するものと認められる研修でもある。

特定健診・特定保健指導では、特定健診(メタボリックシンドロームに着目した健診)の結果に基づき、「生活習慣病のリスクが高い者」、「生活習慣病の予防効果が期待できる者」に対して、特定保健指導を医師、保健師、管理栄養士が行う。その中で食生活の改善に関する特定保健指導支援計画に基づいて、実践的な生活習慣改善のサポートを行うのが食生活改善指導担当者の役割である。

第3期特定健診の質問項目に「食事をかんで食べる時の状態」が追加され、メタボリックシンドロームや低栄養の予防対策には健全な口腔機能の維持が重要であることが広く認識されてきている。この質問項目に「かめない・ほとんどかめない」と回答した者に対して歯科衛生士として、どのような対応ができるだろうか。その知識をつけるため、健康づくりの施策概論から実際に臨床で応用できる栄養指導や健康教育まで広く学ぶことができるのが本コースの特長である。

参加した受講生の感想には、今回の認定歯科衛生士セミナーで学んだ講義は、多職種と関わる上で必要な知識であることは、もちろんのこと、自分自身や家族の健康管理にも役立つという感想も多くみられた。今後も口腔から健康を支援する保健活動を行うための契機として、多くの歯科衛生士が本コースを受講することを期待したい。(委員 青柳 三千代)

摂食嚥下リハビリテーションコース

本コースのプログラム内容は、座学として、リハビリテーション概論に始まり、摂食嚥下のメカニズム、病態別摂食嚥下障害、咬合と咀嚼機能の評価と管理、アセスメント、摂食嚥下機能評価、食事外部観察評価、摂食嚥下訓練の立案・計画、栄養管理、リスクマネジメント、問題解決の実践などを受講する。実習を伴う研修は、間接訓練と増粘剤やゼリーなどを用いた直接訓練の摂食嚥下訓練ならびに、リスクマネジメントの一部としての鼻腔からの喀痰吸引を相互実習で行う摂食嚥下リハビリテーションに関連した多岐にわたる

分野を網羅したプログラムとなっている。

今年度は、昨年度に続きCOVID-19感染拡大の影響もあり、当初は、座学がオンデマンド配信、実習を集合型で予定していた。感染が拡大し、第5波の到来予測が報道された時点で集合型の実習を断念し、9月から約1か月間、すべての研修がオンデマンド配信となり40名が受講した。受講後アンケートから、オンデマンド配信によるセミナー全体としては、おおむね受講者の満足度が高かった。メリットとして時間や場所にとらわれず繰り返し学習できることが多くあがっていた。一方で、実習に関しては、ひとりで動画視聴しながら行う演習となり、手技の確認などが難しく満足度は高くはなかった。コロナ禍における相互実習の代替え方法としては致し方ないという意見もあったが、このような環境下での実習について再検討する必要があると考える。

受講者にとっては、新たな研修形式の認定歯科衛生士セミナーとなったが、本セミナーで得た知識を基礎として、摂食嚥下リハビリテーションを進める多職種連携のチーム医療の一翼を担うべく、高い専門性を有する認定歯科衛生士として活躍することを切に期待している。(委員 柴田 享子)

在宅療養管理・口腔機能管理コース

令和3年度在宅療養管理・口腔機能管理コース(以下本コースとする)は新型コロナウイルス感染拡大状況からWeb開催となり40名の受講生が参加した。

前期セミナーは8項目の講義をオンデマンド配信で、視聴期間は9月4日から10月3日までとした。後期は2項目の講義を集合型により近いものにした考えから10月9、10日の2日間、ライブ配信とした。本コースはより理解を深めてもらうため、配布されたテキストを参考に事前課題の提出や視聴後の事後課題の提出がある。そのため視聴期間についてのアンケート結果(回答率92%)からは、約7割が適当という回答であった。「繰り返し見られたので理解度が深まった」「上京せずに、いつでも、どこでも視聴できるので良かった」という意見があった。しかし「疑問や質問がすぐに解決できない」という声もあった。

後期のライブ配信にはインターネット環境やパソコンの操作技量の課題はあるが、器材を使つての口腔機能評価は体験できる教材を事前に受講生に郵送し、画面越しに演習体験を行うことができた。

また本コースは多職種と連携し、意見交換ができるスキルが要求される。そこで症例検討をグループワークで行い、KJ法にのっとり口腔健康管理計画書の作成までを行う。集合型ではないため「発言のタイミングが難しい」「複数同時に話すと聞き取りづらい」など

の意見もあったが、頑張って意見を出し合い、段階ごとの3回の発表も4グループとも達成することができた。セミナー終了後の従来の施設実習も今回は自己体験もしくは家族体験実習として、受講後の理解を深めてもらった。

今後も在宅支援の一員としてより活動できるよう、社会のニーズに合った講義内容を提供していきたい。(委員 清水 けふ子)

糖尿病予防指導コース

本コースは例年、徳島大学の協力のもと同大学で開催されていたが新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、初のオンライン研修となった。日程は、10月3日、11月7日にライブ配信、10月3日から31日までオンデマンド配信で実施した。受講者は40名であり北海道から沖縄まで全国から集まった。勤務先は病院、診療所、企業、歯科衛生士養成校と分野も多岐にわたっていた。

オンラインによる認定研修が初めてであったこともあり、事前に受講者のネット環境の確認やZoom操作に関するトライアルを行った。

いずれも糖尿病患者や特定健診・特定保健指導、歯科衛生士教育などにおいて歯周病の予防指導、SPT、口腔健康管理や保健指導(生活習慣病予防、肥満予防、など)に携わる者であった。

オンデマンド配信による研修では、糖尿病の基礎知識から歯周病との関連、歯科衛生士の行う保健指導の他に、栄養士や理学療法士からは糖尿病患者に対する適正エネルギーの算出や必要な栄養指導、血糖値改善のための運動と運動療法など専門性の高い講義がなされた。医師からは、糖尿病患者および予備軍約2,000万人に対して、歯科衛生士の介入は必須であるとエールを受けた場面もあった。一方、オンライン研修では5名ずつのグループに分かれて講師から出された課題を画面上でグループワークを行った。いくつかのハプニングがあったがどのグループも規定の時間内にしっかりまとめることができた。

受講者からは、徳島に行ってみたかったので残念、対面だったら、もっとコミュニケーションがとれたという一方で、遠方への移動がなくて助かった、自分の時間で勉強ができて良かったなど、オンライン研修の賛否両論が寄せられた。今後は、新たな時代の更なる研修を、次年度に向けて検討していく予定である。

(副委員長 水上 美樹)

医科歯科連携・口腔機能管理コース

医科歯科連携・口腔機能管理コースが、前期オンデマンド配信(7月17日~8月9日)、後期オンデマンド配信(11月13日~11月28日)、ライブ配信(12月5日)で開催された。今年度は集合型の研修も予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、全日程をオンデマンド配信・ライブ配信に切り替え行うこととなった。全国から20名が本研修を受講した。

前期は、まず医科歯科連携に必要な基礎知識を学ぶため、外科医師、歯科医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、医学物理士(放射線技師)など様々な職種から、幅広い視野での講義を配信した。

後期は、前期の講義内容をふまえ、東京歯科大学市川総合病院で行われている周術期等口腔機能管理や病棟での口腔健康管理の実際、喀痰吸引、呼吸音聴診シミュレータを使用している研修動画など、より実践的な内容の講義を配信した。

12月5日のライブ配信では、Zoomを使用し、舌がんの放射線療法症例について、周術期等口腔機能管理における周術期等専門的口腔衛生処置の計画立案をグループワークとして行い、症例を検討した。グループで検討、発表を行い、発表された内容の問題点や意見について再度検討・発表を行ったことで、より症例についての理解を深めた。

今回の認定研修において、受講者からはオンデマンド配信になったことで、繰り返し視聴することができ、学習が深められたとの声が多くあった。しかし、一方で集合型がなくなったことで、歯科衛生士間の交流や例年行われている病院での研修がなかったことが残念だったとの感想もあった。(委員 大屋 朋子)

歯科医療安全管理コース

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催できなかったが、2021年度は認定歯科衛生士セミナー「歯科医療安全管理コース」を初めてWebで開催した。

講義は17項目あり、オンラインセミナー(オンデマンド配信)は8月21日(土)~9月3日(金)の期間で視聴、9月4日(土)、5日(日)にはオンラインワークショップ(ライブ配信)を行い、30名の受講があった。

新規コースのセミナーであり、初めてのWeb開催で主催側も受講者側も戸惑うこともあったが、オンデマンド配信の講義で知識を学修し、その知識を生かすべくオンラインワークショップ(ライブ配信)でのレクチャーやグループワークにより情報交換を行った。臨床現場における医療安全(感染含む)のワークショップ(以下:WS)では、アイスブレイクの後、各受講者が経験したヒヤリハット事例を紹介し合い、その中の1つについてグループごとにディスカッションし発表した。感染防止対策に関するWSでは、各グループでテーマに沿ったオーデット*を作成し発表することで、さまざまなオーデットを理解した。事例から学ぶ医療安全対策のWSでは、実際にあった事例について各グループで分析・改善策を検討し、多様な視点からの組織づくりの重要性を学んだ。どのWSでも活発なディスカッションが行われ、受講者からはリスクマネジメントの考え方が理解できたとの感想もあった。

医療事故防止対策や感染防止対策は知識だけではなく、実践できるスキルを持つことが重要と考える。本セミナーを受講することで、歯科診療所に勤務の歯科衛生士が、各歯科医院でリスクマネージャーの役割を担い、医療安全・感染対策の実践を各組織内で確立していくことを期待したい。

*オーデット: 内部監査、医療での監査対象は診療・記録方法および器材・環境・システム管理など

(委員 中岡 美由紀)



令和3年度 歯科保健事業功労者 厚生労働大臣表彰

一般社団法人 和歌山県歯科衛生士会 会員
吉田 俊香 様

令和3年11月に開催された全国歯科保健大会において厚生労働大臣表彰を賜り、身に余る光栄です。残念ながらコロナ禍の影響でWeb参加となりました。ご尽力いただいた和歌山県歯科衛生士会ならびに関係者の皆様方に感謝申し上げます。



高3の担任の先生の勧めにより歯科衛生士への道を決めてから長い年月が経ち、定年退職が間近に迫ってきたこと等から、私自身が今まで貢献できたことがあるのかと自問することが増えた昨今でした。そのような時に、賞をいただくことになり、多少は貢献できたことがあったのかなど、心から嬉しく思います。

和歌山県歯科衛生士会の理事になった頃には、口腔保健の必要性を伝えるために行政に働きかけ、歯科衛生士の参画が決まった時の喜びが思い出されます。その頃とは異なり、我々を取り巻く環境も求められる内容もより深く高度化しており、これからも進化が必要でしょう。この受賞を機に、心新たに歯科保健の普及啓発に邁進してまいります。今後ともよろしく願いいたします。

公益社団法人 熊本県歯科衛生士会 会員
岩切 恵子 様

このたび、令和3年度歯科保健事業功労者として厚生労働大臣表彰を拝受いたしました。昭和58年に母校の歯科衛生士養成校の専任教員として勤務し、合わせて歯科衛生士会に入会、同時に広報委員会の補佐として諸先輩のご指導を受け執行部への関わりが開始しました。平成5年に組織担当理事を拝命し会員相互の連携強化と地域に貢献できる歯科衛生士会を目標に支部制を進めました。担当理事二人で人材確保に邁進し12支部が立ち上がりました。休日の生活の中心は常に本会の活動であり、保健医療福祉関係者との会議などにも積極的に出席し視野も大きく広がりました。また本会には、歯科衛生士に誇りを持ち歯科衛生士の発展に尽力されている諸先輩が多く、たくさんの刺激を受け、今も学生の指導に生かしています。更に熊本県歯科医師会が積極的に協力支援して下さることも大きな励みになっています。これからは、歯科衛生士養成校と歯科衛生士会の連携を図り、後輩の育成や社会に歯科衛生士の専門性を周知することに尽力したいと考えております。このたびの受賞に際し、これまで私を導いて下さった関係者の皆様、ご推薦賜りました皆様方に心から深謝申し上げます。



令和3年度 母子保健家族計画事業功労者 厚生労働大臣表彰

特定非営利活動法人 神奈川県歯科衛生士会 会員
三澤 洋子 様

このたびは「令和3年度健やか親子21全国大会」において、母子保健家族計画事業功労者として厚生労働大臣表彰を賜りましたこと、身に余る栄誉であり深く感謝申し上げます。



今年度は、新型コロナウイルス感染拡大を受けてオンライン開催となりましたが、名前が読み上げられた時は身の引き締まる思いでした。私は短大卒業後、母校で学生の指導を5年間務め、その後、地域において母子保健事業に携わってまいりました。また、日本歯科衛生士会の常務理事という貴重な機会をいただき、地域における歯科保健の推進に取り組むことができました。仕事を通じて数え切れないほど、たくさんの方々と出会い、多くのことを教わり、良い経験をさせていただきました。今日の私があるのは、その方々のお蔭と感謝しております。人との絆をこれからも大切にし、今後とも歯科保健の発展に精進してまいります。

最後になりますが、ご推薦くださいました皆様方に厚く御礼申し上げます。

公益社団法人 埼玉県歯科衛生士会 会員
福田 尚子 様

このたびは、「健やか親子21全国大会」にて、厚生労働大臣表彰を賜り、身に余る光栄でございます。ご推薦をいただきました埼玉県歯科衛生士会ならびにご尽力をいただきました関係者の皆様、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。



卒業と同時に大学病院に勤務し、埼玉県歯科衛生士会に入会しました。私が卒業した頃は、う蝕罹患率が今では考えられないくらいに高く、歯や口へ興味や関心をもっていただけるように、乳幼児・小学生・保護者、ときには保健師さんなどに向けて試行錯誤しながら、指導を続けてまいりました。

時代は流れ、歯や口・健康に関する意識も高まり、フッ化物洗口・フッ化物塗布・食育など妊産婦の頃から予防を心がける方が増えてきています。この情報過多な時代に、各ライフステージにあった正しい情報を伝えていくのも歯科衛生士としての使命だと思っております。

コロナ禍での指導の難しさを痛感している日々ではございますが、今後とも多職種との連携を図り、感染予防を含め歯科保健活動に取り組んでいく所存でございます。

最後に日本歯科衛生士会ならびに埼玉県歯科衛生士会のますますの発展を祈念いたしまして、御礼の言葉といたします。

令和3年度「健やか親子21 - 8020の里賞 - (ロツテ賞)」

【優秀賞】 一般社団法人 盛岡市歯科医師会 一般社団法人 岩手県歯科衛生士会盛岡支部



広島県歯科衛生士会

広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センターの 紹介と新人研修の取り組み

一般社団法人 広島県歯科衛生士会 理事 **宮川 琴美**
活用推進・組織強化部



広島県歯科衛生士会では、広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センターと連携をとって活動しています。

今回、広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センターの紹介と広島県歯科衛生士会が行った新人研修についてご報告します。

【広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センターの紹介】

2019年に、厚生労働省補助事業(歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業)である「広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センター」(以下:研修センター)が、歯科衛生士の人材育成を目的として、広島大学歯学部に設立されました。

研修センターでは、A.知識獲得(18科目)、B.基礎技術シミュレーション実習(8科目)、C.臨床トレーニング(10科目)、D.臨床研修(16科目)の4つの充実した研修プログラムがあります。受講希望者には、個人面談で、それぞれの希望に合わせた研修カリキュラムを作成し、規定数の研修を受けた者には修了証が授与されます。現在(2021年11月時点)まで106名の受講生を輩出しました。出産・育児あるいは介護などによって離職中の歯科衛生士に対する知識や技術の修得などによる復職支援や、免許取得直後の臨床実践能力の獲得や、就業に関する相談に応じるなど、離職防止のための支援を行うことで歯科衛生士の人材確保を推進しています(図1)。



図1 超音波スケーリング実習

研修センターでは、個人面談時に歯科衛生士賠償責任保険制度の加入を勧め、歯科衛生士会の非会員には入会案内のパンフレットを渡し入会を促しています。

広島県歯科衛生士会(以下:当会)では、研修センターの研修会情報をホームページや会報誌に掲載するなど広報活動に協力しています。また、研修センターの復職を希望する受講生が当会のDHバンク(歯科医療技術者無料職業紹介所)を利用することで、復職活動が円滑に行えるよう周知をしています。

さらに、後述する当会の新人研修会の講師を、研修センターの教員に担当していただくなど、歯科衛生士の人材確保支援という同じ目的のために、研修センターと当会でさまざまな連携を図っています。

【新人研修の取り組み】

当会では2021年度に初の試みとして、卒後3年以内の歯科衛生士を対象にした「新人研修会」を広島会場と福山会場の2会場で開催しました。広島会場では、コロナ禍での開催にもかかわらず、周知して、まもなく満席となりました。

当日は、パーティションを置くなどの感染対策のほか、集中力を高める効果があるとされるアロマをたくなど会場作りにも工夫しました。

午前中は「社会人としての基本的なマナー」をテーマに、あいさつや身だしなみ、言葉遣いなどについて、マナー講師の島末佳賀美先生に講演していただきました(図2)。

午後からは臨床の基本的な知識と技術が習得できるように、「歯周治療の流れと歯周組織検査」、「X線撮影方法と読影の基本」、「スケーリング・ルートプレーニングの基本」について、広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センター特任助教の相見礼子先生よりマネキンを用いた実技実習を行っていただきました(図3、図4)。

さらに、日本歯科衛生士会組織委員会が制作した入会促進動画を用いながら当会の三好早苗会長が歯科衛生士会のPRを行いました。

受講後のアンケートでは、受講者全員(27名)が「受講して良かったと強く思う」と回答し、満足度が非常に高い結果となりました。また、非会員(25名)の約7割が「今後、歯科衛生士会に入会する意志がある」と答え、会員拡大に向けた啓発にも効果がありました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、歯科衛生士養成校における授業や実習は、制約を余儀なくされています。特に臨床能力を伸ばす要であった相互実習や臨床実習は感染対策のため十分にできておらず、改めて実技研修の必要性和必要の高さを実感しました。

医療は日々新しい知見が研究され、また歯科衛生士という職は人を相手に行うことなので、たとえ働き続けていたとしても、さまざまな悩みや不安を感じるがあると思います。今後も新人だけでなく、どの歯科衛生士にも歯科衛生士という仕事を前向きにできるような場を作りたいと思います。

*広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センターについてはQRコードを読み取りください。



広島大学歯学部
歯科衛生士教育研修センター



広島大学歯学部
歯科衛生士教育研修センター



図2 マナー講義



図3 ブローピング実習



図4 スケーリング実習



ブロック連絡協議会開催報告

北海道・東北ブロック(宮城県) 一般社団法人 宮城県歯科衛生士会 会長 加藤 みゆき

令和3年10月17日(日)北海道・東北ブロック連絡協議会が、日本歯科衛生士会より吉田直美会長、河野章江専務理事、前沢葉子ブロック理事、1道6県から16名の参加をいただき、総勢19名で開催された。

令和3年度のブロック連絡協議会はコロナ禍ということもあり、道県会長の皆様と協議の結果、昨年度同様にWeb会議にて開催した。各道県の紹介に始まり、吉田会長の講演は「歯科衛生士の専門性に関わること」「歯科衛生士の業務の見直しについて」「組織拡大に関することについて」など非常に内容が濃く多岐にわたるもので、今後の会運営について改めて考える機会となった。情報交換ではコロナ禍における研修事業・公衆衛生事業・会議の開催や対策について事前照会資料を用いて行い、災害時の道県での取り組みについてはホームページや安否確認アプリの活用、安否確認についての課題、今後の日本歯科衛生士会での災害歯科保健に関する情報交換・情報提供がなされた。

Web開催にあたりリハーサルを実施、音声などリモート環境についての確認を行った。当日の不具合等についてはチャット機能を使用し、初期対応で大きな乱れもなく、無事に終了できたことに安堵している。対面での開催はかなわなかったが、ブロックの皆様との距離を身近に感じることができた協議会であった。

最後に、ブロック連絡協議会開催準備の段階より皆様のご協力とご理解を賜り無事に終了したことを心より感謝申し上げる。

東海北陸ブロック(福井県) 一般社団法人 福井県歯科衛生士会 会長 川端 登代美

令和3年10月10日東海北陸ブロック連絡協議会が、日本歯科衛生士会より吉田直美会長、久保山裕子副会長、田中千暁ブロック理事、各県会長含め17名、総勢21名の参加でWeb開催された。

吉田会長より、1) 所信表明、2) 歯科衛生士の専門性に関わること、3) 歯科衛生士の業務の見直しについて、4) 組織拡大に関することについて、の情報提供があった。特にこれからは、歯科衛生士の量の確保よりも質の向上が重要であること、国民から必要とされるために研修会や認定制度を通して、より専門性を高めるため、生涯にわたる能力強化が必要と感じた。この講演によって新体制となった日本歯科衛生士会の今後の方針をより深く理解することができた。次に田中ブロック理事より組織委員会の取り組みについて発表があった。

後半はコロナ禍での事業、研修会に関して各県との情報交換および対応策として、現在の研修会状況、災害対策についてディスカッションされた。2年にわたりWeb開催となった協議会であるがオンライン型、集合型それぞれの利点欠点も見えてきた。今後の協議会開催方法についても意見が多数あり、検討が必要と感じた。

最後に、担当県として協議会前後を通してご協力いただいた日本歯科衛生士会、各県会の皆様に深く感謝申し上げます。

九州ブロック(長崎県) 一般社団法人 長崎県歯科衛生士会 副会長 岩本 和美

令和3年10月30日(土)日本歯科衛生士会より吉田直美会長、久保山裕子副会長、下池光九州ブロック理事を迎え、九州8県総勢38名出席のもと、九州ブロック連絡協議会を昨年同様Web会議にて開催した。

開会に先立ち武井典子前会長のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げた。開会、挨拶、各県紹介の後、吉田会長に(1) 所信表明、(2) 歯科衛生士の専門性に関わること、(3) 歯科衛生士の業務の見直しについて、(4) 組織拡大について等、多岐にわたりお話しいただいた。その中に“国民や多職種に頼りにされる歯科衛生士の増加には”という文言があった。このような頼りにされる歯科衛生士の増加が、魅力につながり組織拡大へとつながっていくと考えられ、今後も歯科衛生士の資質の向上、人材育成に取り組みたい。



協議会では「コロナ禍で臨地実習が不十分だった新人歯科衛生士への対応について」というテーマを中心に、課題の確認、各県の取り組み等を情報提供いただきながら、活発な意見交換がなされた。新人研修に関しては、本会だけでなく歯科衛生士養成校や歯科医師会も一緒に検討していくことも重要といった貴重な意見もあった。

追加の質疑応答等もあり、あっという間に3時間が過ぎ閉会となった。

ご出席いただいた皆様には行き届かなかった点お詫び申し上げるとともに、皆様のご協力のもと、ブロック連絡協議会を無事終了できたことを心より感謝申し上げます。

令和3年度「災害歯科保健歯科衛生士フォーラム」開催報告

令和3年12月5日(日)組織・地域歯科保健・災害歯科保健の三委員会共催による研修会として初めてオンラインで開催された。

受講者133名は都道府県歯科衛生士会からの推薦者で、午前は「災害歯科保健コーディネーターおよび災害歯科保健業務調整(ロジスティクス:以下ロジ)」歯科衛生士を対象に、3名の講師による講演が行われた。

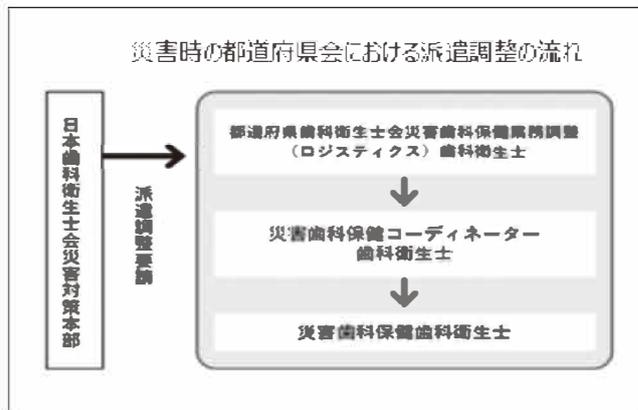
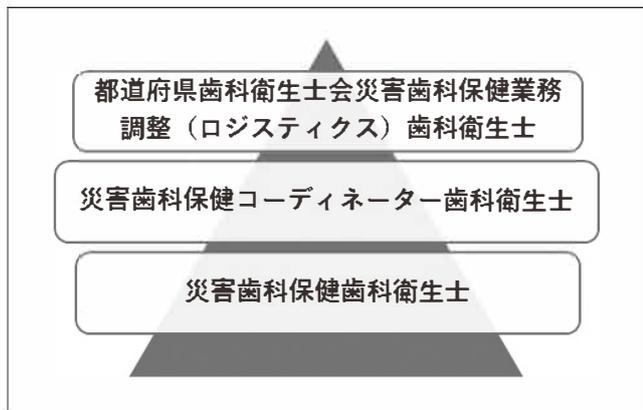
最初に下浦佳之氏(公益社団法人 日本栄養士会 専務理事)による「日本栄養士会災害支援チーム(JDA-DAT)の栄養・食生活支援活動と研修システムについて」、次に太田秀人氏(筑紫歯科医師会 医療管理 理事)による「平成29年九州北部豪雨災害時における歯科保健医療支援活動の舞台裏」、そして、最後に松永真理子氏(一般社団法人 福岡県歯科衛生士会 専務理事)による「都道府県歯科衛生士会が『災害歯科保健活動』に会員を派遣する上で必要なこと」について、ご講演いただいた。いずれも災害支援活動の実践に即し、エールに満ちた内容であった。各都道府県会のコーディネーターやロジとしてかじ取りを担う受講者は、各々の役割

への理解を深め、「連携して取り組もう」という意欲が高まったことが受講後のアンケート結果からもうかがえた。

午後はロジのみを対象とし、46名が受講した。菅原清夏氏(一般社団法人新潟県歯科衛生士会 理事)と山下千穂氏(一般社団法人和歌山県歯科衛生士会 会長)から、それぞれの県会による災害支援の取り組み事例について紹介された。その後、6ブロックに分かれグループワークを行い、「災害時のマネジメントに必要な活動 ~ロジの役割~」をテーマに、災害時にロジとしてすべきこと、そのために平時からの準備などについて、話し合った。太田秀人氏(前記)および中久木康一氏(東京医科歯科大学 救急災害医療分野 非常勤講師)のご助言をいただき、オンラインによるグループワークであったが、積極的な意見や情報交換が行われ、ブロック内のロジ同士のつながりが深まった。

今後、各都道府県会ではロジとコーディネーターを中心に、会員向け研修や緊急時の連絡体制の整備など災害への備えが、ますます進むことが期待される。

(災害歯科保健委員会)



Linking JDHA to IFDH

「International Journal of Dental Hygiene」

本会では、国際歯科衛生士連盟が発行する学術誌「International Journal of Dental Hygiene (IJDH)」を購読しています。会員の皆様にはIJDHが無料公開されているウェブサイトから直接アクセスできるように、最新号のURLを公開いたします。

また、有料の部分については、ご希望の方は購読しているIJDHを本会で閲覧することができます。国際協力委員会までお申込みください。(FAX 03-3209-8023)

国際歯科衛生士誌 2021年11月 第19巻4号

今回から最新号のテーマをご紹介します。

本号には音波歯ブラシや歯磨剤の成分について検討された論文が各国から掲載されています。日本からは、国際協力委員会の竹之内茜委員が執筆した超音波歯ブラシの周波数の違いによる口腔衛生への効果の比較についての論文が掲載されています。

IJDHホームページ <https://onlinelibrary.wiley.com/journal/16015037>

International Journal of Dental Hygiene 最新号



(国際協力委員会 宮澤 絢子)



リーフレット「お薬とお口の関係 ドライマウス」を作成しました

今年もサンスター株式会社の協力を得て、第6弾となるリーフレットを作成いたしました。正会員の皆様と同封いたします。診療室のチェアサイドなどで、お口の乾燥が気になる方へ、お薬状況を確認する際などにご活用いただけましたら幸いです。

日本歯科衛生士会ホームページからダウンロードが可能です。

(病院委員会・診療所委員会)



トピックス一覧

日本歯科衛生学会 第17回学術大会 ハイブリッド開催のお知らせ

2022年9月に徳島県で開催する第17回学術大会は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止の観点から、会場開催(2日間)とWeb配信(ライブ配信およびオンデマンド配信)を合わせたハイブリッド開催の準備を進めています。今後の感染状況により、開催形式等に変更が生じる可能性もありますので、第17回学術大会ホームページ(2月公開予定)を随時ご確認ください。皆様のご参加と、発表演題のご応募をお待ちしています。

開催日程 2022年9月18日(日)~19日(月・祝) Web配信:9月18日(日)~10月18日(火) 予定

開催場所 アスティとくしま
(徳島県立産業観光交流センター)

演題受付期間 2022年3月1日(火)~4月15日(金) 13:00まで

演題申込方法 インターネットによるオンライン登録 **大会ホームページ** <https://jsdhm.jdha.or.jp/17th/>



2022年度 歯科衛生臨床研究助成の公募について

本研究助成は、国民の歯科口腔保健の推進に寄与することを目的として、株式会社YDMの協賛により行っています。

応募については、右記事項を確認のうえ、日本歯科衛生士会ホームページから実施要領、応募書類をダウンロードし、2022年4月28日(木)必着で日本歯科衛生士会事務局へ郵送で申込みを行ってください。

審査を行い、助成決定者には、5月末日までに通知し、7月末日までに助成金を支給いたします。

本研究助成を受けた方は、研究終了後、研究報告書、会計報告書の提出、日本歯科衛生学会学術大会での発表および日本歯科衛生学会雑誌への論文投稿を行っていただきます。

- 1 研究期間:2022年4月1日~2023年3月31日
- 2 2022年度指定研究テーマ「口腔健康管理」
- 3 研究助成者:1名
- 4 助成金支給額:30万円
- 5 応募締切日:2022年4月28日(木)必着
- 6 応募書類、実施要領等は、日本歯科衛生士会ホームページ <https://www.jdha.or.jp/> からダウンロードしてください。
- 7 申込みおよび問い合わせ先
日本歯科衛生士会事務局 学会担当
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
TEL:03-3209-8020 Email:gakkai@jdha.or.jp

理事会報告

令和3年度第4回理事会が令和3年12月4日(土)に開催された。審議事項および報告事項は次のとおりである。

審議事項

- (1) 令和4年度ブロック連絡協議会実施要領(案)について
- (2) 令和4年度認定歯科衛生士セミナー実施計画(案)について
- (3) 令和4年度「地域歯科衛生活動」事業の助成について
- (4) 令和4年度事業計画の概要(案)について
- (5) 日本歯科衛生学会第18回(令和5年)学術大会 開催担当都道府県会及び大会長について
- (6) 一般社団法人日本健康ライフデザイン機構への後援依頼について
- (7) 歯科衛生士損害賠償責任保険について
- (8) 新入会員の承認について
- (9) その他

報告事項

- (1) 会務報告について
 - ① 業務執行理事等の職務執行報告について
 - ② 常務理事会の報告について
 - ③ 常任委員会等の報告について
- (2) 専門歯科衛生士制度検討小委員会について
- (3) 第16回学術大会報告について
- (4) 令和3年度第1回「歯科衛生士復職支援・離職防止等研修指導者養成研修等事業」運営協議会について
- (5) 令和4年度理事会等の開催日について
- (6) 「歯科診療におけるオンライン診療等に関する検討会」構成員の推薦について
- (7) 日本在宅衛生士制度推進連絡協議会への委員推薦について
- (8) オーラルヘルスケアセミナー講演について
- (9) 第11回歯科医学教育者のためのワークショップの参加について
- (10) 日本歯周病学会の報告(連絡事項)について
- (11) 賠償責任保険の保険請求について
- (12) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定について
- (13) 第16回国民医療推進協議会総会の決議について
- (14) 「歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会」修了者へのアンケートについて
- (15) 「加熱式タバコ」への対応に関する協力について